



ムシトリナデシコ

40 編の詩人ダビデは **主にのみ、わたしは望みをおいていた。主は耳を傾けて、叫びを聞いてくださった(40:2)** と、満願成就を感謝します。さらに **わたしの口に新しい歌を／わたしたちの神への賛美を授けてくださった。人はこぞって主を仰ぎ見／主を畏れ敬い、主に依り頼む。(40:4)** と、「新しい歌」を捧げています。ダビデほど多くの賛歌を捧げている詩人はいないのに、「新しい歌」とは！生まれ変わったような喜びを歌っているのではないのでしょうか。そして **いかに幸いなことか、主に信頼をおく人／ラハブを信ずる者にくみせず／欺きの教えに従わない人は。わたしの神、主よ／あなたは多くの不思議な業を成し遂げられます。あなたに並ぶものはありません。わたしたちに対する数知れない御計らいを／わたしは語り伝えて行きます(40:5)** と賛美と決意を述べています。ここでラハブとありますが、ヘブライ語では、ヨシユアの斥候を守り、逃がしたエリコの遊女ラハブは【**רַחַב**】と記され、40 編のラハブは【**גֹּבַהּ**】(高ぶる者)と記されています。英語では偶像と訳されています。詩人は **あなたはいけにえも、… 罪の代償の供え物も求めず／ただ、わたしの耳を開いてくださいました(40:7)** と、神の寛大な赦しに感嘆しています。詩人は神が求められたことは、「聞くこと」であったと言います。 **そこでわたしは申します。御覧ください、わたしは来ております。わたしのことは／巻物に記されております。わたしの神よ、御旨を行うことをわたしは望み／あなたの教えを胸に刻み／大いなる集会で正しく良い知らせを伝え／決して唇を閉じません(40:8)** と、自身のすべての所業は明白に記されており、今後は神の御旨を行い、それをすべての民に伝え続けると約束しています。自分自身の罪に苦しむ、また、命を狙う者がいる現実のなかで、詩人は神の慈しみを信頼し、**御救いを愛する人が／主をあがめよといつも歌いますように(40:17)** と、詩人の思いと共に、**主よ、わたしは貧しく身を屈めています。わたしのためにお計らいください。あなたはわたしの助け、わたしの逃れ場。わたしの神よ、速やかに来てください(40:17)** と、謙遜に神の救いを求めています。「讚美歌 21」129「わたしの望みは」が 40 編を歌っています。参照 <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2011-06-24>

41 編の詩人ダビデは **いかに幸いなことでしょうか／弱いものに思いやりのある人は(41:2)** と、弱いものを思いやる人々が神の祝福を受けると最初に記しています。ダビデは、民の前に立ちました。ダビデのように、信仰深く、有能で、勇気、知恵、健康、財力に富んでいて、優れたタラントを持っているならば、どんなに誇らしく、素晴らしいことでしょうか。けれども詩人ダビデは、人の前に立つより先に、神の前に立ちます。その時、自らの弱さを知り、主の憐れみを乞うています。そして、主の憐れみにより、再び、立ち上げられることを知りました。最も素晴らしい人とは「弱いものに思いやりがある人」であり、それこそ、神に喜ばれ、人に喜ばれることだと悟り、実感したのだと思います。

詩人はこの時、命が危ぶまれるような病の床にあったのでしょうか。人生も黄昏が迫り、色々思い巡らすことがあったのでしょうか。他人なら死んでもかまわないと思う者、苦しめる者、表面は繕い、心には悪意がある者、しかも、一緒に食事をしたはずの者が弱みにつけこむなど、相変わらず詩人を取り巻く世界は邪悪に満ちています。詩人は邪悪に負けるわけにはいきません。

詩人は最後に **どうか、無垢なわたしを支え／とこしえに、御前に立たせてください(41:13)** と願っています。ただ一筋に神を信じ、賛美する自分が、神によって支えられて、生きている、しかも、いつまでも変わることなく主の前に立っている、という姿が、敵に勝つことだと信じます。最後に、**主をたたえよ、イスラエルの神を／世々とこしえに。アーメン、アーメン(41:14)** と、神を賛美します。41 編に関連する讚美歌が「讚美歌 21」にはありません。私は 492「いつくしみ深い」を歌いたいです。

参考までに <https://www.youtube.com/watch?v=Rkk0xrL-fR8>